

祈りの諸問題 第1回

□ 「祈りの諸問題」のアウトライン

1. 誤った祈り
 2. 祈りと 神の摂理
 3. 祈りと 神の偉大さ
 4. 祈りと 神の全知
5. 祈りと 神の主権
 6. 祈りと 自然の法則
 7. 祈りを妨げるもの
 8. 聖書箇所での誤った適用
 9. 祈りが答えられないことについて

本日は、第1から第4の4つの問題を扱います。

□ 第1 誤った祈り

明らかに間違っている祈りのタイプには、4つある。

1. 偶像に向けての祈り

- (1) イザヤ 16 : 12 高き所に詣でて、そこで身が疲れ果てるまでのことをしても、その聖所に入って祈っても、何にもならない
 - ① この箇所は、モアブという民族に対する警告。モアブは、アブラハムの甥ロトの子孫であるが、偶像崇拝をする民となっていた。「高き所」とは偶像を設置した場所である。
 - ② 偶像に向かってどんなに祈っても、神は聞いてくださらない。
- (2) イザヤ 44 : 17 その残りで神を造って自分の偶像とし、ひれ伏してそれを拝み、こう祈る。『私を救ってください。あなたは私の神だから』と。
 - ① 「その残りで」=切り出した木のうち薪にした残りで
 - ② 木で造った像を拝むことの愚かさを厳しく警告している。
- (3) イザヤ 45 : 20 彼らは自分たちの木の偶像を担ぐ者、救えもしない神に祈る者たちで、知識がない。
 - ① 「救えもしない神に祈る」とは、偶像に祈ることである。
 - ② 【補足】「神」という用語は、偶像の神についても使われる。もちろん、偶像は真の神ではない。

- I コリ 8 : 4~6 「世の偶像の神は実際には存在せず、唯一の神以外には神は存在しない」ことを私たちは知っています。というのは、多くの神々や多くの主があるとされているように、たとえ、神々と呼ばれるものが天にも地にもあったとしても、私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、この神からすべてのものは発し、この神に私たちは至るからです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、この主によってすべてのものは存在し、この主によって私たちも存在するからです。
- I コリ 10 : 14~20 ですから、私の愛する者たちよ、偶像礼拝を避けなさい。・・・(中略)・・・偶像に捧げた肉に何か意味があるとか、偶像に何か意味があるとか、言おうとしているのでしょうか。むしろ、彼らが捧げる物は、神にではなくて悪霊に捧げられている、と言っているのです。私は、あなたがたが悪霊と交わる者になってもらいたくありません。
- 偶像の背後にいるのは悪霊である。「ご利益(ごりやく)」や「靈験あらたか」は事実として起きる。それは悪霊たちの働きである。それによって、人を真の神から引き離すことが、悪霊たちの目的である。そして偶像崇拝の場には、それによって儲けようとする宗教事業者が多い。

2. 祈り手が罪と関係しているときの祈り

- (1) 詩 109 : 7 彼がさばかれるとき 有罪が宣告され 彼の祈りが罪と見なされますように
- ① もし人が神の前に罪を犯しているままで祈るとしたら、祈りそのものまでも罪と見なされてしまう。
 - ② 信者が気づいている罪がありながら、それを神の前に言い表すことがなければ、その信者は神の前に偽善者となってしまう。偽善者の祈りは、どんなに祈りの内容が立派であっても、神の目にはその祈りまでもが罪である。そのような祈りは聞かれない。
- (2) イザヤ 1 : 15 あなたがたが手を伸べ広げて祈っても、わたしはあなたがたから目をそらす。どんなに祈りを多くしても聞くことはない。あなたがたの手は血まみれだ。
- ① ここでの「あなたがた」は、文脈上、罪の中に生活している人たちである。そのような人たちがどんなに祈ったとしても、それは単に、彼らの願望を述べているだけである。罪の中に生活する人たちの祈りは、祈りそのものも罪のおいがる、神は決してそのような祈りを聞かれることはない。
 - ② 神はそのような者たちからは「目をそらず」、「聞こうともしない」。

3. 父なる神以外に向けた祈り

- (1) 父なる神以外の誰に宛てた祈りも、誤った祈りである。
- (2) イエスの母マリアに対して祈ること、これも誤った祈りである。神は決してそのような祈りを聞かれることはない。
- (3) 歴史上の聖人たちに向けて祈ること、これも誤った祈りである。神はそのような祈りを聞かれない。

4. 祈りの力を主張しての祈り

- (1) 【神はどんなことでもできる、よって神に祈れば、どんなことでもできる】・・・地域教会の中で、時折このような声を聞くが、それは誤解である。
- (2) 神は全能であり、何でもできる。しかし、祈りは、そうではない。
 - ① 神は、すべてのものから超越しておられる。私たち信者個人の祈りを超えて、はるかに力強いお方である。
 - 私たち信者がどれほど確信をもって、これが最善であると考えて祈り始めたことであっても、最後までそのまま進んで、そのとおりになるとは限らない。
 - 私たちは、自分の願い求めを祈る。同時に、謙遜に神のみこころを求め、自分の願うとおりにではなく、神のみこころがなりますようにと祈る。これが、神のみこころにかなった祈りである。
 - ② 神は、ご自身のみこころを行い、ご自身の計画を進める。同時に、私たち信者の祈りを聞いてくださる。必ずしもその祈りのとおりにではないが、私たちに最善なことをしてくださる。「祈りは何でもできる、そして祈れば必ずそうなる」のではなく、「祈れば、最善に導かれる」のである。

□ 第2 祈りと神の摂理

1. 神の摂理：神はすべてのことを予知しておられる。その予知の中には、私たちが祈ることも祈らないことも含まれている。神はすべてのことを予め知っておられて、すべてのことを予め定めておられる。 → では、信者が祈ることに意味はあるのか？
2. 答え：ある、神の摂理の中にあっても祈りは重要である、その理由は3つ
 - (1) 神は、私たちが祈っても祈らなくても、どちらでもよいとは言っておられない。神は、私たちに祈るように命じておられる。そして私たちが祈ることも祈らないことも含めて、すべてのことを予知し、すべてのことを定めておられる。 **私たちが祈ることは、神の計画に中に入っている**。よって、私たちの祈りは重要である。
 - (2) 私たちが祈ることで、神は計画を進める。私たちの祈りが事を決めるのではなく、**神がその計画を進めるのは、私たちの祈りを聞いたとき**である。よって、私たちの祈りは重要である。

(3) 神が予定しておられることは、事の結果だけではない。その事が結果に至るまでの経過、その事を成す手段もまた予定しておられる。その手段の中に、私たちの祈りも含まれる。神の摂理とは、信者の祈りを無意味にするものではなく、信者の祈りを用いるものである。よって、私たちの祈りは重要である。

3. 事例：イエスの再臨と私たちの祈り

(1) 私たちは、聖書を通して、神の計画の中で、将来どのようなことが起きるかを教えられている。そしてそのことを祈るように言われている事例のひとつが、イエスの再臨についてである。

(2) 黙 22:20 これらのことを証しする方が言われる。「しかり、わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。

① イエスの再臨は、携挙と地上再臨の二つの段階を経て起きる。これは神の計画の中で、必ず起きることである。

② 携挙と地上再臨が起きることは決まっているから、祈りは意味がない、とは聖書は教えていない。私たち信者が、「主イエスよ、来てください」と祈るたびに、その日は近づいているのである。

□ 第3 祈りと神の偉大さ

1. 神の偉大さを思うと、私たちの日常生活の小さなことに神は関与してくださるのか

(1) 詩 8:4 人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。

① この詩篇記者もまた、そのような疑問を提起している。

② 神の偉大さ、神がこの広大な宇宙をコントロールしておられることを思うと、小さな私の、ささいな日々の生活に関することに、神が関心を持ってくださるなどとは、考えられない。

(2) しかし、神は偉大であるということは、神は無限なお方であるということである。それは物事を処理する能力が無限であるということでもある。神は、どんな小さなことであっても、無限の数の案件を処理できるお方であるということである。神は私たちの日々の生活のささいなことまでにも関心を持ってくださっていることを、聖書は教えている。そのような聖書箇所を次に見てみよう。

2. 神が私たちの日常生活に関心を持っておられることを示す箇所

(1) マタイ 6:31~34 ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。ですから、明日のことまで

心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。

- ① この箇所では、神が何に関心を持ってくださっているか述べられている。私たちが食べる物、飲む物、着る物すべてである。私たちが生きていくために必要な物を与えること、これは神の関心事である。
 - ② 「私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください」(マタイ 6:11) と、私たちが父なる神に祈ることは、正しいことである。それは、神の関心事であるからである。
- (2) ルカ 12:6~7 五羽の雀が、2アサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でも、神の御前で忘れられてはいません。それどころか、あなたがたの髪の毛さえも、すべて数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、多くの雀よりも価値があるのです。
- ① この箇所では、「雀一羽でも」とある。神は、鳥たちも、野の獣たちも、魚たちも、昆虫たちも、すべての生き物たちを覚えておられる。
 - ② まして人は、神にとって価値ある大切な存在である。神は私たちの頭の髪の毛まで数えておられる。髪の毛が1本抜け落ちるたびにあと何本残っているか、私たち自身は知らないが、神はご存じである。これは、神が私たちの日々のささいな生活にまで関心を持ってくださっているということである。
3. 神の偉大さは、祈りの意味を消すものではない。神は無限なるお方である。どんな小さなことがらも無限に神の関心の中にある。

□ 第4 祈りと神の全知

1. 神はすべてのことを知っておられるのに、私たちが祈る必要はあるのか
 - (1) マタイ 6:8 あなたがたの父は、あなたがたが求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるのです。
 - (2) この箇所では、父なる神は、私たちが求める前から、私たちに必要なものを知っておられるとある。それならば、私たちは祈り求める必要があるのだろうか?
 - ① マタイ 6章では、イエスは祈ることを教えておられる。父なる神が前もって知っておられるから、祈る必要がないと教えておられるのではない。
 - ② もし、神が私たちに必要なものを知っておられないとしたら、大変である。私たちは自分で神に、自分にとって必要なものを説明して求めないといけない。私たちは判断に迷い、自分の選択が正しいのか、心配で夜も眠れなくなるであろう。
 - ③ 神があらかじめ私たちに必要なものを知っておられるのに、祈り求めよとおっしゃるのは、何のためか。それは、私たちが神を信じ、神に信頼するとい

う経験を積ませるためである。

- 祈りとは、神に近づくことである。そして、祈りに神がどのように答えてくださるかを見ることになる。このとき、私たちは、神を信じること、神に信頼することを、実際に体験する。
- (3) あることがやがて起きるとわかっていると、信者は確信をもって祈ることができる。その事例のひとつが、預言者エリヤの祈りである。それを次に見よう。

2. 預言者エリヤの祈りの事例

- (1) 第一列王記 18 章では、神は前もってエリヤに干ばつを終わらせ、イスラエルの地に雨を降らせることを約束された（I 列 18 : 1）。エリヤはそのことを知っていたので、確信をもって祈った。その記事が、41 節から 45 節である。
- (2) I 列王 18 : 41~45 エリヤはアハブに言った、「上って行って、食べたり飲んだりしなさい。激しい大雨の音がするから。」そこで、アハブは食べたり飲んだりするために上って行った。エリヤはカルメル山の頂上に登り、地にひざまずいて自分の顔を膝の間にうずめた。彼は若い者に言った。「さあ、上って行って、海の方をよく見なさい。」若い者は上って、見たが、「何もありません」と言った。するとエリヤは「もう一度、上りなさい」と言って、それを七回繰り返した。七回目に若い者は、「ご覧ください。人の手のひらほどの小さな濃い雲が海から上ってきます」と言った。エリヤは言った。「上って行って、アハブに言いなさい。『大雨に閉じ込められないうちに、車を整えて下って行きなさい。』」しばらくすると、空は濃い雲と風で暗くなり、やがて激しい大雨となった。アハブは車に乗って、イズレエルへ行った。
- ① エリヤは、雨が降ることを知っていた。神がそのように彼に約束されたからである。
- ② このことを知っていても、エリヤは祈った。むしろ、積極的に祈りに向かった。神の計画を知ることは、信者を祈りから遠ざけるのではなく、むしろ祈りに向かわせるものである。

3. まとめ

- (1) 神は、全知のお方である。神は、あらかじめ私たちに必要なものを知っておられる。その神が私たちに祈り求めよとおっしゃるのは、何のためか。それは、私たちが神を信じ、神に信頼するという経験を積ませるためである。
- (2) 神は、私たち信者に、神のご計画を明らかにされることがある。特に、新約時代の私たちには、神は旧約と新約の聖書を与え、新約聖書において奥義を明らかにしておられる。ここから受け取る知識は、私たちが祈りから遠ざけるものではなく、私たちが確信と喜びをもって祈るようにしてくれる。